

長岡造形大学

入学試験

模擬問題

平成 28年度

長岡造形大学
入学試験
模擬問題

目次

アドミッションオフィス入学試験 模擬問題.....	4 - 5
推薦入学試験 模擬問題.....	6 - 7
一般入学試験 模擬問題 平面構成.....	8 - 9
一般入学試験 模擬問題 鉛筆描写.....	10 - 11
一般入学試験 模擬問題 小論文.....	12 - 14
入学試験に関する問い合わせ.....	15

アドミッションオフィス入学試験 模擬問題

課題制作等 180分（成果の発表時間を含む）

●志願者が持参するもの：はさみ、のり、筆記用具、カッター

模擬問題 1

※この問題は平成 27 年度アドミッションオフィス入学試験で使用された問題を一部改編したものです。

学 科	課題制作等の内容
プロダクト デザイン学科	<p>〈問題〉 厚紙で立方体を作り、その表面に次の 2 つのイメージを色紙（折り紙）を用いて表現しなさい。 表現すべきイメージ：楽しげな～寂しげな</p> <p>〈条件〉 1) 立方体の大きさは 11cm とする 2) 立方体の展開図は用意してあるものを使用する 3) 制作時間の終わりに成果物について発表する</p> <p>●大学で用意したものと、A3 コピー用紙、ケント紙（展開図印刷）、付箋、折り紙</p>
視覚 デザイン学科	<p>〈問題〉 付箋（フセン）の新しいデザイン・活用法を提案しなさい。</p> <p>〈条件〉 1) 提案は B3 プレゼンボードで表現し、発表する 2) プレゼンボードは横位置で使用する 3) プレゼンボードには別の用紙を貼り付けたり、ボード自体を切ったりしてはならない 4) 制作時間の終わりにプレゼンボードを見せながら発表を行う。その際用具はプレゼンボードのみを使用する。 5) 付箋（フセン）の色、形、大きさ、素材等の設定は自由</p> <p>●大学で用意したものと、B3 ケント紙、B3 ケントボード、付箋 等</p>
美術・工芸 学科	<p>〈問題〉 与えられた条件に従い、「静」と「動」のイメージを立方体に表現しなさい。</p> <p>〈条件〉 1) 作図されている厚紙を切り抜き、立方体を制作する 2) 2 つのイメージを、制作した立方体の表面に色紙を用いて表現する 3) それぞれのイメージは 2 面または 3 面で表現する 4) 制作した作品の説明および感想を発表する</p> <p>●大学で用意したものと、直定規（60cm）、カッター、カッターマット、メンディングテープ、三角定規セット、A3 コピー用紙、ケント紙（展開図印刷）、コンパス、色紙シール</p>
建築・環境 デザイン学科	<p>〈問題〉 「橋」</p> <p>〈条件〉 何と何を結ぶ橋なのか、A3 コピー用紙一枚にフリーハンドでコンセプト（企画内容）を考えて書き下ろし、これに基づいて、二つの異なるものを結ぶ橋として相応しい形をデザインし、別の A3 コピー用紙一枚におおよそのラフスケッチを描きなさい。また与えられた紙（A3 コピー用紙 30 枚）を使用して具体的に制作しなさい。</p> <p>二つの異なるものは、男と女、喜びと悲しみ、日本とアメリカなど何でもよい。各自で設定すること。なお、50cm の間隔に開いた二つのテーブルに設置し、壊れないものを作る。制作時間の終わりにコンセプト、ラフスケッチとともに成果物を説明しなさい。</p> <p>●大学で用意したものと、直定規（60cm）、カッター、カッターマット、セロテープ、三角定規セット、A3 コピー用紙、コンパス、ホチキス</p>

模擬問題 2

※この問題は平成 28 年度アドミッションオフィス入学試験で使用された問題を一部改編したものです。

学 科	課題制作等の内容
プロダクト デザイン学科	<p>〈問題〉 厚紙で直方体（90mm、114mm、143mm）を作り、その表面に次の 2 つのイメージを色紙を用いて表現しなさい。表現すべきイメージ：穏やかな～活発な</p> <p>〈条件〉 制作後、発表を行う。</p> <p>●大学で用意したもの 直定規（60cm）、カッター、カッターマット、メンディングテープ、三角定規セット、A3 コピー用紙、ケント紙（展開図印刷あり）、色紙シール</p>
視覚 デザイン学科	<p>〈問題〉 ガムテープをデザインしなさい。</p> <p>〈条件〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガムテープは段ボールを梱包し、発送するためのものとする。その際に、発送先（A）と、発送品（B）を任意に設定すること。 2) デザインは、B3 プレゼンボードに表現すること。 3) プレゼンボードは横位置で使用すること。 4) プレゼンボードには別の用紙を貼付けたり、ボード自体を切ったりしてはならない。 5) プレゼンボードに（A）、（B）をそれぞれ明記すること。 6) 段ボールは指定されたものとする。 7) ガムテープのデザイン（素材、色、太さ、長さ等）は自由とする。 8) A4 コピー用紙はアイデアスケッチに使用すること。 9) 配付したマーカー、色鉛筆以外に、持参した筆記用具も使用して良い。 10) 制作したプレゼンボードのみを使用して、1 人 1 分 30 秒で発表を行うこと。 <p>●大学で用意したもの 直定規（60cm）、カッターマット、マーカーセット、色鉛筆、鉛筆削り、段ボール、ガムテープ、セロテープ、A4 コピー用紙、B3 ケントボード</p>
美術・工芸 学科	<p>〈問題〉 与えられた条件に従い、「自然」と「人工」のイメージを表現しなさい。</p> <p>〈条件〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2 つのイメージを、色紙等を用いて表現する。 2) 成果の説明および感想を 1 分で発表する。 <p>●大学で用意したもの 直定規（60cm）、三角定規セット、カッター、カッターマット、コンパス、A3 コピー用紙、ケント紙、色紙、のり</p>
建築・環境 デザイン学科	<p>〈問題〉 「屋根」</p> <p>〈条件〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 直径 27cm の円形平面の建物にかかる「屋根」をデザインし、提案しなさい。屋根は真上から見て直径 27cm の円形全体を覆うように制作すること。また、①建物の名称（住宅・野球場・コンサートホール・国立競技場など、何でもよい）、②題名（タイトル）、③コンセプト（企画内容）、④ラフスケッチ（屋根の下描きなど）を考え、提案しなさい。なお、縮尺は考えなくてよい。 • 「屋根」に筆記具での書き込みや色塗りはせず、紙の白地のままで A3 コピー用紙 20 枚以内を使用し、模型を制作しなさい。 • A3 コピー用紙 1 枚（横使い）に①から④の内容を記したものと、「屋根」の成果物について、制作後に 1 分程度で発表 <p>●大学で用意したもの 直定規（60cm）、カッター、カッターマット、セロテープ、三角定規セット、A3 コピー用紙、コンパス、ホチキス</p>

推薦入学試験 模擬問題

小論文 90分

- 受験者が持参するもの：筆記具（HBまたはBの鉛筆・シャープペンシル、消しゴム）
- 大学で用意するもの：解答用紙、草案用紙

模擬問題 1

※この問題は平成27年度推薦入学試験で使用された問題を一部改編したものです。

〈問題〉

以下の文章を読んで、ものづくりにおける『日本らしさ』とはどんなものであるか、あなたの考えを800字以内（句読点は文字数に含む）の小論文としてまとめなさい。但し、回答に際しては、ふさわしいと考えられるキーワード1語を各自想定し、それをを用いた題名を解答用紙の1行目に記しなさい。また、題名の「キーワード」を四角で囲むこと。なお、各自が想定するキーワードに「美意識」、「(お)もてなし」の語は除外する。

美意識は資源である

掃除をする人も、工事をする人も、料理をする人も、灯りを管理する人も、すべて丁寧に篤実に仕事をしている。あえて言葉にするなら「繊細」「丁寧」「緻密」「簡潔」。そんな価値観が根底にある。日本とはそういう国である。

（中略）

こうした普通の環境を丁寧にしつらえる意識は作業をしている当人たちの問題のみならず、その環境を共有する一般の人々の意識のレベルにも繋がっているような気がする。特別な職人の領域だけに高邁な意識を持ち込むのではなく、ありふれた日常空間の始末をきちんとすることや、それをひとつの常識として社会全体で暗黙裡に共有すること。美意識とはそのような文化のありようではないか。

ものづくりに必要な資源とはまさにこの「美意識」ではないかと僕は最近思いはじめている。これは決して比喩やたとえではない。ものの作り手にも、生み出されたものを喜ぶ受け手にも共有される感受性があるからこそ、ものはその文化の中で生まれ成長する。まさに美意識こそものづくりを継続していくための不断の資源である。しかし一般的にはそう思われていない。資源といえば、まずは物質的な天然資源のことを指す。

日本は天然資源に恵まれないので、工業製品を生み出すために高度な「技術」を磨いてきたと言われる。戦後の高度経済成長は、そのような構図でものづくりを進めてきた成果である。世界はそう認識しているし、日本人もそう思ってきた。戦後の日本が得意とした工業生産は「規格大量生産」、つまり均一にたくさん製品を作ることとをきわめて安定した水準で達成することであった。また、製品を小型化する凝縮力のようなものがそこに働いて、日本の工業製品の優位をより鮮明に示すことに成功した。日本の生産技術は、量を前提とした品質と、緻密さや凝縮性を工業製品として体現した結果、世界からの高い信用を獲得したのだ。

しかしながら、ここで言う「技術」とは、言い換えれば繊細、丁寧、緻密、簡潔にものづくりを遂行することであり、それは感覚資源が適切に作用した結果、獲得できた技の洗練ではないか。つまり、今日において空港の床が清潔に磨きあげられていたり、都市の夜景をなす灯りのひとつひとつが確実に光を放つことの背景にある同じ感受性が、規格大量生産においても働いていたのではないかと考えられる。高度な生産技術やハイテクノロジーを走らせる技術の、まさに先端を作る資源が美意識であるという根拠はここにある。

※引用のため、一部文章を変更している。

原研哉 「日本のデザイナー—美意識がつくる未来」岩波新書 2011年より

模擬問題 2

※この問題は平成 28 年度推薦入学試験で使用された問題を一部改編したものです。

〈問題〉

以下の文章を読み、あなたの考える「デザインの原形」について 800 字以内（句読点は文字数に含む）で論じなさい。

デザインの原形とは「類」（似かよったものたち）や「種」（物の分類の基本単位）の元を成すもので派生（枝分かれしたもの）ではない。また、原形とはオリジナリティ（独創的なもの）とも少し違う。オリジナリティは独自であることが目的で、それは作者の個性や主観的意思の表れである。原形は作者が探し出した必然である。それが必然であることは、そのものが長い年月で生かされ、生活に溶け込んできたことで実証される。それらはまるで、急な登山道で誰もが無意識につかまってしまう木の枝や岩の角のような、成るべくして成った存在である。

原形たるデザインからは、作者がその原形を探し出そうと試みる姿勢が見えてくる。それは作者自らの個性を表現しようとする意欲や取り組みの姿勢とは異なるものである。作者はその原形を探し当てた瞬間、同時にそれが長い年月でこれから存在していく生活の中の姿を俯瞰からとらえている。ものにだけ集中せず、周りとの関係を見ている。原形の意味を知る者は、つくり出そうとするのではなく、生活の背景になり、人の行為にはまり込む必然を探し出そうとしている。原形となりうるデザインには時代の流れや一時の刺激に迎合されない強さと自由度がある。しかし、刺激や個性もデザインである。現われてはすぐ消える短命のものたちも、時代の輝きをつくり出している。原形たるデザインだけをよいデザインと称しているのではない。むしろ原形たるデザインは一時（いつとき）の刺激や輝きを放つものたちの背景となって、それらをより際立たせる力がある。それは時代と共に移り変わる人の心理が回帰するよりどころでもある。

日本デザインコミッティー 『デザインの原形』 六耀社 2002 年より

一般入学試験 模擬問題

平面構成 180分

- 志願者が持参するもの：不透明水彩絵の具、筆（平筆、丸筆、面相筆など）、絵の具皿またはパレット、筆記用具（鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム）、コンパス、三角定規（1組）、30cm 直定規、筆洗いバケツ、雑巾
- 大学で用意するもの：ケント紙イラストレーションボード、草案用紙 等

模擬問題 1 ※この問題は平成 27 年度一般入学試験 [前期日程] で使用された問題を一部改編したものです。

〈問題〉

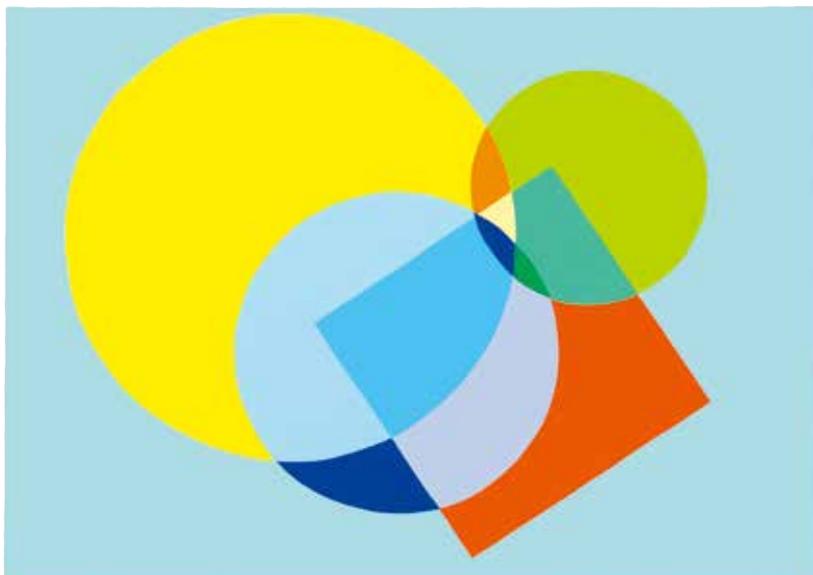
条件に従い、以下の要素全てを使って、美しい色彩構成をなさい。

- 任意の正円 3 つ
- 任意の四角形 1 つ

〈条件〉

- 1) 与えられた A3 イラストレーションボード横位置中央に、縦 210mm × 横 297mm の長方形を描き、その長方形内を画面とする。
- 2) 図形は、画面に接しても良いが、はみ出してはならない。
- 3) 図形が重なる場合は、下の図形が分かるように表現する。
- 4) 使用する色数は自由。
- 5) 彩色は平塗とし、ぼかし、かすれ、にじみ等の表現は使用しない。
- 6) 画面内は余白を残さず彩色する。また、画面外は彩色せず、イラストレーションボードの白地のまま残すこと。
- 7) 指定された用具のみを使用する。

●作品例



模擬問題 2 ※この問題は平成 28 年度一般入学試験〔前期日程〕で使用された問題を一部改編したものです。

〈問題〉

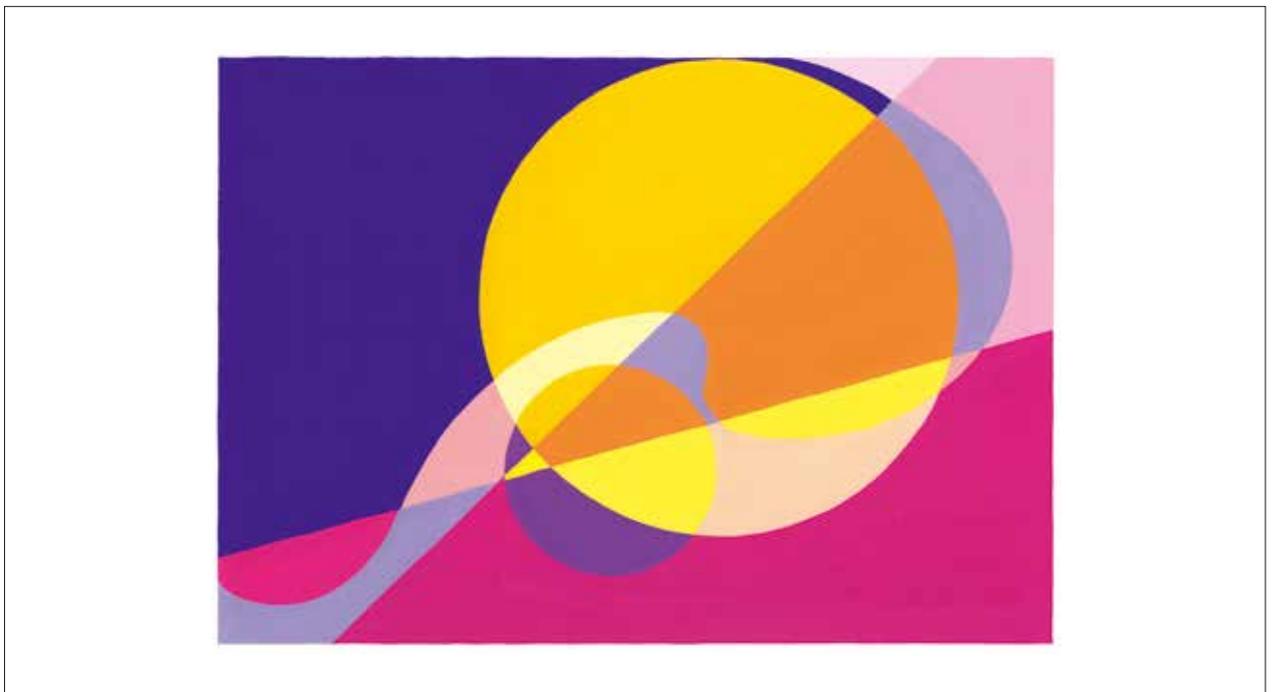
条件に従い、以下の要素全てを使って、美しい色彩構成をなさい。

- 任意の正円 2 つ
- 直線 2 本
- 任意の曲線 1 本

〈条件〉

- 1) 与えられた A3 イラストレーションボード横位置中央に、縦 210mm × 横 297mm の長方形を描き、その長方形内を画面とする。
- 2) 正円は画面に接しても良いが、はみ出してはならない。
- 3) 図形が重なる場合は、下の図形が分かるように表現する。
- 4) 直線、曲線には幅を持たせない。
- 5) 直線は画面内を貫いて引かれていること。
- 6) 曲線は始まりと終わりが画面の枠と接していること。
- 7) 使用する色数は自由。
- 8) 彩色は平塗とし、ぼかし、かすれ、にじみ等の表現は使用しない。
- 9) 画面内は余白を残さず彩色する。また、画面外は彩色せず、イラストレーションボードの白地のまま残すこと。
- 10) 指定された用具のみを使用する。

● 作品例



一般入学試験 模擬問題

鉛筆描写 180分

- 志願者が持参するもの：鉛筆（黒各種）、鉛筆入れ、消し具（消しゴム、練り消しゴム）、鉛筆削り用具（カッター等）※羽根ぼうきまたはブラシ持参可
- 大学で用意するもの：画用紙ボード、草案用紙 等

模擬問題 1 ※この問題は平成 27 年度一般入学試験 [前期日程] で使用された問題を一部改編したものです。

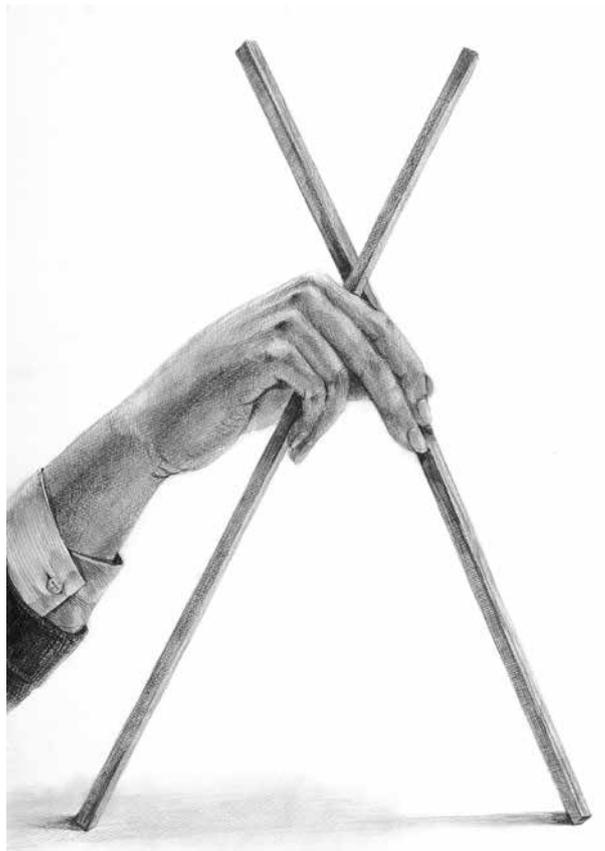
〈問題〉

与えられたモチーフ（角材 2 本）を持った手（片手）を以下の条件により画面内に鉛筆描写しなさい。また、どのような状況や気持ちを描いたか、100 字以内で原稿用紙に制作意図を書きなさい。

〈条件〉

- 1) 解答用紙（B3）の白い面（表）に描いてください。たて、よこのいずれの向きで使用しても構いません。
- 2) 与えられたモチーフは、次のことに注意して描いてください。
 - ・持ち方は自由。
 - ・モチーフは画面からはみ出して描いて構わない。
 - ・描写するモチーフの数は 2 本とする。
- 3) 描かれた手（片手）は、画面内で実際の手の大きさ程度とします。
- 4) 陰影をつけ、立体的、空間的に表現をしてください。
- 5) 指示された用具のみを使用してください。
- 6) 解答用紙の裏面上部中央には、画面の「上」を示す矢印「↑」を表記してください。

●作品例



模擬問題 2 ※この問題は平成 28 年度一般入学試験〔前期日程〕で使用された問題を一部改編したものです。

〈問題〉

与えられたモチーフ（正方形の銀紙）と片手（左右どちらでも可）を以下の条件により画面内に鉛筆描写しなさい。

〈条件〉

- 1) 解答用紙の白い面に描いてください。
- 2) 解答用紙は、縦、横のいずれの向きで使用しても構いません。
- 3) 与えられたモチーフ（正方形の銀紙）は、次のことに注意して描いてください。
 - ・モチーフの扱いは自由に使用して構いません。
 - ・画面からはみ出して描いても構いません。
- 4) 陰影をつけ、立体的、空間的に描写してください。
- 5) 指示された用具のみを使用してください。

● 作品例



一般入学試験 模擬問題

小論文 90分

- 志願者が持参するもの：筆記具（HBまたはBの鉛筆、シャープペンシル、消しゴム）
- 大学で用意するもの：解答用紙、草案用紙

模擬問題 1 ※この問題は平成27年度一般入学試験〔前期日程〕で使用された問題を一部改編したものです。

以下の文章を読んで、下線部Aに関して自分の意見を800字以内で述べなさい。なお、人材、商品等、何を対象として論じているのかを明確にするとともに、キーワードを一つ設定すること。設定したキーワードは文中において で囲んで明示すること。

ここで経営学や経済学で使われる言葉だが、とても大事なキーワードを挙げたい。

それは「コモディティ」という概念である。

コモディティ (commodity) とは英語で石鹸^{せっけん}や歯ブラシなどの「日用品」を指すときによく使われる言葉だが、経済学や投資の世界ではちょっと違う意味で使われる。

(中略)

経済学の定義によれば、コモディティとは「スペックが明確に定義できるもの」のことを指す。材質、重さ、大きさ、数量など、数値や言葉でははっきりと定義できるものは、すべてコモディティだ。

(中略)

一定のレベルを満たしていれば、製品の品質は関係ない。たとえば、日本の自動車部品メーカーが作る製品の質は、非常に高いレベルにある。しかし、グローバル化して少しでも安い部品を調達したい自動車会社から見れば、一定のスペックを満たしていれば、それらの部品はすべて「同じ」と判断される。だとすれば、少しでも価格が安いほうから買いたい。

だから、今の自動車業界、とくに部品を供給するビジネスは、どれほど品質が高くても買い叩かれる構造となっている。

ちなみにコモディティ部品のコスト削減をもっとも激しく行った企業が、ゼネラルモーターズ (GM) だ。GMは部品会社の提案に対して、「我々はあなた方の提案にはいっさい興味がない。我々が求める基準を満たしていれば、価格がいちばん安いところに決めます」と宣言し、徹底して「コモディティ化戦略」をとった。

コモディティ化した市場で商売をすることの最大の弊害は、「徹底的に買い叩かれること」にある。

コモディティ市場において、商品の値段がいくらに決まるかは、非常に明快だ。資本主義市場では、商品が需要に対して不足しているときは値上がりし、余っていれば値下がりするのが根本ルールとなる。コモディティ化した市場は、恒常的に商品が余っている状態になるので、そこでの商品の値段は、供給側（買ってもらう側）の「限界利益」がゼロになるまで下がる。

限界利益とは、経済用語で「商品が一単位売れたごとに生じる利益」のことだが、簡単にいえば、実質的な生産コストを差し引いた、売り手の手元に残る利益のことを指す。

それがゼロになるということは、コモディティ商品を作る企業は、価格競争を続けていった末に、「売っても売っても儲からない」「ずっと商品を提供し続けるだけの飼い殺し」の状態に追い込まれてしまうということなのだ。

身近な例でいえば、近年の牛丼チェーンの値下げ競争に、コモディティ市場の典型を見ることが出来る。牛丼という食べ物は、チェーンによって多少は味に差があるのだろうが、月に1度か2度食べるぐらいの普通の生活者に、その味の差異が明確に認識されているとは言いがたい。

生活者にとっては、「腹いっぱい、安い値段で牛丼が食べられること」がいちばんのバリューで、吉野家の牛丼か、松屋の牛めしか、すき家の牛丼かはたいした問題ではない。そうなると消費者が牛丼チェーンを選ぶ基準は「少しでも安いほうが良い」ことになり、10円、20円の争いになってくる。だから牛丼チェーンはどこも限界まで利益を削って、値下げすることでしか他社との差別化ができなくなっているのである。

さて、私がここで声を大にしてお伝えしたいことは、「コモディティ化するのには商品だけではない」ということだ。「コモディティ化」は部品だけの世界の話ではない。労働市場における人材の評価においても、同じことが起きているのである。

(左ページ続き)

これまでの「人材マーケット」では、資格や TOEIC の点数といった、客観的に数値で測定できる指標が重視されてきた。だがそうした数値は、極端に言えば工業製品のスペックと何も変わらない。同じ数値であれば、企業側は安く使えるほうを採用するに決まっている。先ほどの外資系企業の採用の話でいえば、「TOEIC900 点以上」ならば誰でも同じ、という話なのである。

だからコモディティ化した人材市場でも、応募者の間で「どれだけ安い給料で働けるか」という給料の値下げ競争が始まる。

つまり資格や TOEIC の点数で自分を差別化しようとする限り、コモディティ化した人材になることは避けられず、最終的には「安いことが売り」の人材になるしかないのだ。

一会社員、一研究者、一営業マン、一教師、といった具合に、同じような能力を持った人間であれば、今やっていることをほかの誰かと交換しても、代わり映えない労働力になることが、個人のコモディティ化である。

(中略)

コモディティとは前述したように、「スペックが明確に数字や言葉で定義できるもの」という意味である。個々の商品の性能自体が高いか低い、品質が優れているかどうかは、関係がない。

人間の採用においても同じことだ。学歴が博士課程の人を募集するのであれば「博士」というスペックで、もしくは六大学以上の学歴で TOEIC が 900 点以上というスペックで募集をかける。そうすると、そこに集まった人は「みな同じ」価値しかない。そこで付加価値が生まれることはないのだ。

業務マニュアルが存在し、「このとおりに作業できる人であれば誰でも良い」という仕事であれば、経営者側にとっての関心は「給料をどれだけ安くできるか」という問題になる。

こうして、いかに人を買叩くか、という競争がグローバル市場の中で行われ、ホワイトカラーの労働力そのものがコモディティ化してしまった。そのため、今の社会は構造的に「高学歴ワーキングプア」を生み出す仕組みになっているのである。

ここまで述べてきたように、これからの日本では、単なる労働力として働く限り、コモディティ化することは避けられない。

それでは、どうすればそのようなコモディティ化の潮流から、逃れることができるのだろうか。それには縷々述べてきたように、人より勉強をすとか、スキルや資格を身につけるといった努力は意味をなさない。

※引用のため、一部文章を変更している。

瀧本哲史 『僕は君たちに武器を配りたい』講談社 2011 年より

一般入学試験 模擬問題

小論文 90分

- 志願者が持参するもの：筆記具（HB または B の鉛筆・シャープペンシル、消しゴム）
- 大学で用意するもの：解答用紙、草案用紙

模擬問題 2 ※この問題は平成 28 年度一般入学試験〔前期日程〕で使用された問題を一部改編したものです。

以下の文章は 1932 年に日本を訪れ 3 年間滞在したドイツの建築家ブルーノ・タウトが著した「日本美の再発見」という本の一節である。タウトは京都の桂離宮をはじめ日本の建築、絵画、生活など様々な分野において、ワビ・サビといった面だけではなく、その芸術性や、機能的、汎用性といった面にも目を向け、それらのすばらしさを国内外に紹介した。

下記の一節は、日本建築の特徴、特に住宅における床の間の特徴について著したものである。現代の日本の住宅では床の間の存在は薄れてはきたものの、自由さと規範を合わせ持つ本来の床の間や畳の部屋のありようは、これからも各方面で応用されていくだろう。

あなたがこの大学で学ぼうと思っているプロダクトデザイン、視覚デザイン、美術・工芸、建築デザインという領域を念頭におき、下線部にある“欠けている「住心地よさ」”をどのようにしたら提供できると思うか、あるいはどのような空間をデザインしたいと考えているのか、10 文字程度のタイトルとともに 800 字以内で記述せよ。

茶室からは、多くのものが住宅に取り入れられた。(中略) われわれはこれを住宅の静かな全体的落ち着きに見ることができる。すなわち京都において最も多く見られる真正の「茶趣味」がそれである。しかしこの趣味は、欄間の透し彫りとか不自然な釣合、あるいは矮小奇異なものをいっさい排除する。かかる高雅な趣味は、禪に源を発するものとして「渋い」雰囲気、つまり諦観的な調和を要求するのである。

ここで私は、日本家屋のもつ特徴、すなわち日本の国土や、また昔ながらの伝統をそのまま保持している慣習と独自の調和を保っている特徴をくみだしく述べる必要はない。ただ「床の間」は、文化、芸術および精神的な所産を置くべき定めのある場所として、世界に冠絶した創造である。床の間は、いかなる時代いかなる国土においても模倣せられ、——たとえ形式を異にするにせよ、——継承せられるに値する絶対的な解決である。西洋の画家は、各人の意のままに制作する。しかし彼等は自分の作品を購う人がこれを何に用いるのか、またどこへ掛けるのかを知らない。ところが日本家屋では、絵画の用途と場所とは最初からきまっているのである。日本の部屋は、平常はいつも「虚」である。過去のどんな追憶も仄暗い隅々にまつわっていることがない。なるほどここには西洋の家屋に見られるような「住心地よさ」は欠けている。数多くの家具、絨毯、カーテン、テーブルクロス、クッション、絵画、壁掛などは備えつけてない。部屋全体がすっかり開け放たれて、通気は自由である。それだからこそ、あたかも白い捏粉でも印したように、あるいは壁にあるいは部屋の隅々に点染して、ややもすれば住む人の心を圧迫する追憶もまた存しないのである。

西洋の真摯な建築家に最も大きな影響を与えたところのものは主としてこれであった。ヨーロッパおよびアメリカにおける現代的な室内建築は、その沿革を実に日本に求めたといつてさしつかえない。

<欄間・らんま>

天井と鴨居（かもし）との間に、格子（こうし）や透かし彫りの板などを取りつけた部分。採光通風などのためのもので、装飾を兼ねる。

<諦観・ていかん>

全体を見通して、ものの本質を見きわめること。

<捏粉・こねご>

小麦粉に水を入れてこねたもの。

※引用のため、一部文章を変更している。

ブルーノ・タウト著、篠田英雄訳 『日本美の再発見』岩波書店 1939 年より

入学試験に関する問い合わせ
長岡造形大学 入試課

[受付時間] 月～金 8:30～17:00 (土・日・祝を除く)

[大学休業期間] 平成28年8月13日(土)～平成28年8月21日(日)
平成28年12月28日(水)～平成29年1月3日(火)

〒940-2088 新潟県長岡市千秋4丁目197番地

Tel. 0258-21-3331 Fax. 0258-21-3343

E-mail nyushi@nagaoka-id.ac.jp



公立大学法人

長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design